

沿革

1982年	下顎運動機能とEMG 研究会発足(2月19日) 代表幹事:石岡 靖, 幹事:津留宏道, 丸山剛郎, 小林義典, 長谷川成男, 坂東永一, 渡辺 誠, 山田好秋, 斉藤義明, 吉田可典
	1982年度日本ME 学会専門別研究会として承認
	第1 回研究会開催(5月, 東北大, 仙台戦災復興記念館) 口演時間15分, 質問時間15分は現在まで継承
	第4 回研究会において筋電図に関する基礎的なテーマでシンポジウム「筋電図のとり方・みかた」を企画(11月, 東北大)
1983年	下顎運動機能とEMG 論文集第1 輯発行(7月) 論文集は第1 輯から第11輯(1993年)まで計11冊発行
	筋電図コンピュータ分析研修会開催(8月27~29日, 新潟大学) 若い研究者の基礎的なトレーニングのため, 筋電図の基本について3日連続集中の教育講演と実習を実施
1985年	「顎口腔機能研究会」に改名
	研究会の研究成果を基に申請した「下顎運動機能の検査・診断用データベース作成に関する臨床的基礎研究」(研究代表者, 石岡 靖)が科学研究費総合(A)に採択(1985年度~1986年度)
1988年	「全国ネット化による下顎運動機能の検査診断データベース構築に関する研究」(研究代表者, 石岡 靖)が科学研究費総合(A)に採択(1988年度~1990年度)
1991年	夏期セミナー in 胎内「顎口腔機能分析の基礎と臨床」開催(8月25-28日, 新潟県胎内パークホテル, 新潟大)
	単行本「顎口腔機能分析の基礎とその応用」(デンタルダイヤモンド社)発行(9月)
1993年	第43回顎口腔機能研究会開催(大阪歯科大) 研究会としての最終大会(3月)
	日本顎口腔機能学会発足(6月26日) 初代会長, 丸山剛郎
1994年	日本顎口腔機能学会第1 回学術大会(東京医科歯科大)(6月)
	日本顎口腔機能学会雑誌第1巻第1号発行(12月)
1997年	「日本顎口腔機能学会賞」制定(3月) 本学会の対象とする学問領域において顕著な貢献をした者に授与
	「日本顎口腔機能学会奨励賞」制定(3月) 優れた研究者を助成, 育成する目的から, 若手研究者に授与
2005年	単行本「よくわかる顎口腔機能 咀嚼・嚥下・発音を診査・診断する」(医歯薬出版)発行(7月)
2007年	第4回顎口腔セミナー単行本「咀嚼・嚥下機能の検査法」発行(3月)
	日本歯科医学会認定分科会に登録
2008年	「日本顎口腔機能学会特別賞」制定(4月) 本学会において顕著な貢献をした者に授与
	第5回顎口腔セミナー単行本「顎運動および筋電図検査法」発行(11月)
2009年	下顎運動機能とEMG 論文集(第1 輯-第11 輯), 日本顎口腔機能学会雑誌(第1巻~)がJ-STAGE(科学技術情報発信・流通総合システム)に収載決定
2010年	第6回顎口腔セミナー単行本「顎口腔機能の評価」発行(3月)
	「顎口腔機能評価のガイドライン」発行(9月)
2012年	2012年度日本歯科医学会プロジェクト研究に採択 「口腔疾患の治療や口腔機能の維持・回復が全身の健康に与える影響に関するプロジェクト研究, 歯科的介入による口腔機能の改善が健康に及ぼす影響に関する臨床データベースの構築」(研究代表者, 佐々木啓一)
2013年	2013年度日本歯科医学会プロジェクト研究に採択 「口腔環境の評価に基づく摂食・咀嚼・嚥下訓練方法に関するプロジェクト研究, 摂食・嚥下障害患者における経口摂取と口腔内環境の関係」(研究代表者, 井上 誠)
2014年	「学術大会優秀賞」制定(4月) 本学会の対象領域における学問および技術の発展・充実に寄与する優れた研究を学術大会において発表した若手研究者に授与
2015年	第8回顎口腔セミナー単行本「顎口腔機能の検査・分析-基礎と実践-」発行(10月)
2016年	「顎口腔機能評価のガイドライン(2016改訂版)」発行(3月)
2017年	「新 よくわかる顎口腔機能 咬合・摂食嚥下・発音を理解する」発刊(2月)

(表内敬称略)